

令和 6 年 6 月 6 日現在

機関番号：33504

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2020～2023

課題番号：20K10648

研究課題名(和文) 看護系大学教員の医療安全教育力向上のための教材の開発

研究課題名(英文) Development of teaching materials to improve medical safety education skills of nursing university faculty

研究代表者

小林 美雪 (Kobayashi, Miyuki)

健康科学大学・看護学部・教授

研究者番号：30389978

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、看護教員のための具体的で実現可能な医療安全教育の教材開発である。前回研究で明らかとなった課題および医療安全系学会で行ったパネルディスカッションでの看護教員、臨床看護職等から収集した意見を基に、看護教員の医療安全教育力向上のための実現可能な教育教材を作成した。教材は、授業編と実習編の2部構成である。今回開発した教材の活用と評価による効果判定が今後の課題である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、看護学生への医療安全教育が標準化されておらず、教育の質にばらつきが大きい現在の教育機関の状況を明らかにした前研究の調査結果を基に、教員のための具体的で実現可能な医療安全教育の教材開発を行った。開発過程では医療安全系学会でのパネルディスカッション等において、研究動機、目的および教育と臨床の観点からの医療安全教育の取り組みの発表を行うとともに、意見交換を通じて参加者の医療安全教育の意識向上につなげることができた。作成した教材は、今後、看護教員と臨床の指導者、看護職、看護管理者等が医療安全教育について学び、教えあう契機として活用できると考える。

研究成果の概要(英文)：This study is aimed at developing teaching materials for medical safety education, which is concrete and feasible for nursing teachers.

Based on the issues revealed in the previous research and the opinion collected from nursing teachers, clinical nursing professionals, etc. in panel discussions held at the Medical Safety Society, the feasible education for nursing teachers to improve medical safety education. I created the teaching materials. The teaching materials were composed of two parts, class and practical training. Future issues are the use of the teaching materials developed this time and the effects of the effects by evaluation.

研究分野：医療安全

キーワード：医療安全教育 看護教員 教材開発

## 1．研究開始当初の背景

現在、看護学生に対する医療安全教育は標準化されておらず、教育の質にはばらつきが大きい。本研究は、研究者らの平成 29 年度～令和 1 年度、科研費補助金研究「看護系大学教員の医療安全教育力向上のためのプログラム開発」において明らかとなった課題に応じた教材開発を目指した。

## 2．研究の目的

本研究は、看護教員のための具体的で実現可能な医療安全教育の教材開発を目的とした。

研究の成果物は、全ての看護系教員（大学、専門学校）が、医療安全関連科目を担当するか否かに関わらず、看護学教育における医療安全教育の標準として共有すべき医療安全の基本的知識を系統的網羅的に学習できる教材である。

## 3．研究の方法

- 1) 前回研究の成果を公表するとともに、本研究の意義を示し、教材開発につなげる。
- 2) 看護系大学教員の医療安全教育力向上のための具体的で実現可能な教育教材を作成する。
- 3) 作成した教材をもとに、医療安全系学会、看護教育系学会等でパネルディスカッションを行い、看護教員、臨床看護職等から意見を収集し教材に取り入れる。

## 4．研究成果

### 1) 前回研究の成果を公表するとともに、本研究の意義を示し教材開発につなげる。

初年度は、前回の研究成果を看護系雑誌に公表し、本研究の目的および医療安全教育の重要性を示した<sup>1)~4)</sup>。掲載の基本テーマは「医療安全教育力を向上しよう」であり、研究者・看護教員・実習受け入れ病院の教育担当者、CNE、さらに看護管理者から医療安全教育について見解を述べ、看護教育に携わる教員、医療機関の関係者と共に医療安全教育について考える機会とした。

概要は以下のとおりである。

(1) 看護基礎教育における医療安全教育の現状と課題について、看護学部の学部長や学科長、教員を対象とした研究成果を基に報告した。研究では、2008 年の指定規則改正において医療安全の基礎知識が看護教育に盛り込まれた後も、医療安全教育を受ける環境（医療安全研修の受講等）が十分ではない多くの看護系大学の教員は、医療安全の最新の知識を修得する場がないことや、「医療安全を推進する体制、医療安全管理者、現場の実践者の役割」「安全な医療サービス提供の基盤となる業務整理等の環境整備の重要性と方法」等の医療安全教育の教授力の自己評価が低いことが明らかになっている。これらのことから、教員と臨床の看護職が継続的に協働する場を設けることや、看護教員が質の高い医療安全教育力を獲得する必要について述べた。

(2) 教員の医療安全教育力の育成については、教育機関と臨床の連携による学生の医療安全教育の環境を整備する教育環境創成力が教員には必要であること、それらの能力を発揮するための教員の医療安全教育力の生成が求められていることを述べた。

(3) 看護学生と新人看護職に対する医療安全教育の基盤作りについては、看護基礎教育の教員と継続教育、臨床教育の懸け橋としての CNE の役割と活動、医療安全管理者等との連携・協働の重要性を示した。

(4) 看護管理者の視点では、病院の医療安全の取り組みとして、学生の実習での安全教育と、実習にか

かわる職員への現任教育の実施による、次世代を担う人材育成の取り組みを示した。

以上の研究成果および看護教員の医療安全教育力の育成、実習を受け入れる臨床の実習指導者や看護管理者との協働の考えを基に、教材開発を進めた。

## 2) 看護系大学教員の医療安全教育力向上のための具体的で実現可能な教育教材を作成する。

教材は、3つの主旨を基本として作成した。

- (1) 多様な教育形態、教育経験の教員が医療安全教育に応用できる
- (2) 医療安全教育の現状を踏まえた、教育と臨床の協働による教育環境づくり  
失敗から学ぶことのできる教育環境と支援のあり方(安全文化を育む教育)
- (3) 安全な医療と看護を提供する責務を自覚し、自ら考え行動できる看護職育成のための教育

教材は、授業編と実習編の2部構成とし、以下の項目でテキストを構成した。

### 医療安全教育力の向上：授業編

#### 医療安全をどのように教えるか

- 1) 医療安全教育の理念と教育方法( WHO 患者安全カリキュラムガイド多職種版指導者向け指針、看護学教育モデル・コア・カリキュラム、安全文化の醸成)
- 2) 失敗から学ぶことができる教育環境と支援のあり方(安全文化を育む教育)

#### 教育方法・教育内容・到達度からみた医療安全教育

- 1) 医療安全教育のカリキュラム設計、2) 医療安全の基本的知識(情報の伝達と共有：報告・連絡・相談(ほうれんそう)、情報管理、未然防止の方策：5S・KYT、安全確保の方法：指差呼称・Wチェック)
- 3) 学年ごとの医療安全教育の位置づけ(1年次、2年次、3年次、4年次)
- 4) 各領域(科目)への医療安全教育の組み込み(単科目授業の医療安全教育、各授業科目内の医療安全教育：基礎看護領域の安全教育、各論領域の安全教育：成人看護学・高齢者/在宅看護・精神看護学・小児看護学)
- 5) 医療安全科目の教育方法(インシデント体験教育：実習前の事故事例の検討、実際の看護場面を想定した事故の予測(KYT))

#### 安全確保のための看護技術(看護場面で多い事故の種類と防ぐ技術)

- 1) 安全確保の看護技術(食事関連ケア：食事・栄養の援助実施目的、食事・栄養の援助実施に関連するリスク、清潔関連ケア：清潔ケア実施目的、清潔ケアの援助実施に関連するリスク、実際の事例、移乗ケア：移乗援助実施の目的、移乗援助実施に関連するリスク、実際の事例、与薬ケア：与薬援助実施目的、与薬援助実施に関連するリスク、実際の事例、転倒・転落予防の援助：転倒・転落予防ケア実施の目的、転倒・転落予防ケア実施に関連するリスク、実際の事例)
- 2) インシデント・レポートの看護教育への活かし方(インシデント・レポートを看護教育に活かす意義、インシデント・レポートの書き方、インシデント・レポートの分析と活用)

### 医療安全教育力の向上：実習編

#### 臨地実習において医療安全をどのように教えるか

- 1) 教員と実習施設のチーム連携による医療安全教育のための実習環境の整備(看護部門との連携、実習病棟および実習指導者、病棟看護職との連携、医療安全管理部門との連携：インシデント発生時のフローの共有、実習場所特有のインシデント事例の共有)
- 2) 学習レディネスの相違による実践における

医療安全教育の段階的教育（ 1年次の実習、 2年次以降の実習）3）医療安全教育のための環境整備（ 実習環境の整備、 学生実習に向けた準備、 実習中の情報の取り扱い）4）学生が関連したインシデントへの対応と医療安全教育（ インシデントの発生場面と対応：看護教員の関わり、臨地実習指導者の関わり、インシデント発生時の具体的な対応例、 看護学生の実習上の責任について）5）学生が陥りやすい失敗、エラー（ 看護援助に関するインシデント、 情報管理に関するインシデント、 学生が陥りやすい失敗・エラーの特徴、 インシデント場面の教材化：医療安全教育のためのリフレクション、当事者との振り返り・実習グループ・学年、学校での教材化、実習病院・実習病棟・医療安全管理者との共有）

最後に、本テキストの考え方として、看護職を育成するための教員と現場の看護職との協働の重要性と、看護職の仲間として学生を育てる過程で、学生からも育てられているという思いを教員が大切にしてい、医療安全教育を推進することの重要性を示している。

### **3) 作成した教材をもとに、医療安全系学会、看護教育系学会等でパネルディスカッションを行い、看護教員、臨床看護職等から意見を収集し教材に取り入れる。**

2023年、医療安全に特化した学会でパネルディスカッションを開催した。

冒頭に3名の演者から、「医療安全教育力向上のための教材開発と活用について」<sup>5)</sup>「教員の視点から見た卒前・卒後のギャップを埋める医療安全教育」<sup>6)</sup>「臨床の視点から見た医療安全教育」<sup>7)</sup>について発表を行った後、グループディスカッションを行った。参加者は、看護系大学教員・専門学校教員（以下、看護教員）医療福祉施設の看護職、医療安全に精通する専門家、製薬企業の社員等であった。グループディスカッション後のアンケート調査から、以下のような課題や意見が寄せられた。

職場における医療安全の取り組みの課題や安全教育の悩み

（看護教員）教科書の丸暗記ではなく、実際に自分の身に起こることとして考える力をどのように育てていくか/教員の患者安全の知識の差による考え方やインシデント・レポート内容のギャップを感じる、（医療福祉施設の看護職）実習の中で学生に臨床に則した医療安全を伝えるのが難しいと感じる/実習指導者は患者の安全は守れても、学生の安全まで考慮して行動しているか/タスクを達成することはできるが、リスク予測のイメージを持ってない職員が多くなっているように感じる、（製薬企業の社員）担当薬剤について看護職の認知度・関心が少ないと感じる

教材に取り上げてほしい内容、発表内容への意見

（看護教員）インシデントに関する臨床側との連携方法として、医療安全管理者が院内で学生が起こしたインシデントを知る仕組み作り、学生も院内インシデント報告システムで報告することが望ましい、（医療福祉施設の看護職）動画によるヒヤリ・ハット事例/各科・分野別のKYT、（製薬企業の社員）ハイリスク薬剤や6Rの徹底/薬害があった薬剤の掲載

本パネルディスカッションに参加して得られたこと

（看護教員）看護教員が医療安全に対して確実な知識を持つことが必須である/医療安全教育の重要性/臨床と教育の相互理解が重要であり、そこから始めたい/（医療福祉施設の看護職）医療安全管理者が看護学生に関わっていない現状であるが、現場のKYTが学生の医療安全を身につける機会になると感じた、（製薬企業の社員）シームレスな教育を掲げた教材作成に各医療機関の教育担当が関心を持てば看護師教育もより良いものになると考える。

医療安全教育について語れるネットワーク・プラットフォームへの参加希望については、回答者のほとんどが、そのような場があれば参加したいという回答であった。

パネルディスカッションで寄せられたこれらの意見も参考に教材開発を進めた。現在、研究成果を基にした看護教員および臨床の看護職を対象とする医療安全教育の考え方と具体的な方策について、看護系雑誌に掲載が決定している。

## 5. 残された課題

今回開発した教材の活用と評価による効果判定が今後の課題である。パネルディスカッション後のアンケート調査結果から、看護教員の安全教育の考えや能力のギャップへのジレンマや臨床と教育機関の医療安全教育のための協働・連携が十分に行えていない現状が明らかになった。作成した教材は、今後、看護教員と臨床の指導者、看護職、看護管理者等が医療安全教育について学び、教えあう契機として活用できると考える。

### 引用文献

- 1) 小林美雪：特集医療安全教育力を向上しよう,看護基礎教育における医療安全教育の現状と課題,医学書院,62巻1号,2021,8-17.
- 2) 内田宏美：特集医療安全教育力を向上しよう,教員の医療安全教育力を培う,医学書院,62巻1号,2021,18-26.
- 3) 嶽肩美和子,加藤恵子：特集医療安全教育力を向上しよう,学生から新人看護師への移行期における医療安全教育,医学書院,62巻1号,2021,28-34.
- 4) 中根直子：特集医療安全教育力を向上しよう,病院の医療安全に学生とどう向き合うか,医学書院,62巻1号,2021,36-42.
- 5) 小林美雪：PD-4-1 看護基礎教育に従事する教員と実習指導者の医療安全教育のための教材開発,医療安全教育力向上のための教材開発と活用について,第18回医療の質安全学会学術集会誌,18巻抄録号,p200,2023.
- 6) 甲斐由紀子：PD-4-2 看護基礎教育に従事する教員と実習指導者の医療安全教育のための教材開発,教員の視点から見た卒前・卒後のギャップを埋める医療安全教育,第18回医療の質安全学会学術集会誌,18巻抄録号,p200,2023.
- 7) 嶽肩美和子：PD-4-3 看護基礎教育に従事する教員と実習指導者の医療安全教育のための教材開発,臨床の視点から見た医療安全教育 - 看護基礎教育とのシームレスな関わり、協働を目指して -,第18回医療の質安全学会学術集会誌,18巻抄録号,p201,2023.

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計10件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 小林美雪	4. 巻 62 1
2. 論文標題 看護基礎教育における医療安全教育の現状と課題	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 医学書院「看護教育」	6. 最初と最後の頁 8-17
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 内田宏美	4. 巻 62 1
2. 論文標題 教員の医療安全教育力を培う	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 医学書院「看護教育」	6. 最初と最後の頁 18 - 26
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 嶽肩美和子 中村加奈子 加藤恵子	4. 巻 62 1
2. 論文標題 学生から新人看護師への移行期における医療安全教育	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 医学書院「看護教育」	6. 最初と最後の頁 28 - 34
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中根直子	4. 巻 62 1
2. 論文標題 病院の医療安全に学生とどう向き合うか	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 医学書院「看護教育」	6. 最初と最後の頁 36 - 42
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小林美雪 甲斐由紀子	4. 巻 65
2. 論文標題 「変わる！変える！医療安全教育：いま、看護教員に求められる医療安全教育力」	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 医学書院「看護教育」	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 島田伊津子 甲斐由紀子 中村加奈子	4. 巻 65
2. 論文標題 「変わる！変える！医療安全教育：医療安全教育の工夫1（仮題）」	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 医学書院「看護教育」	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 島田伊津子 小林美雪	4. 巻 65
2. 論文標題 「変わる！変える！医療安全教育：医療安全教育の工夫2（仮題）」	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 医学書院「看護教育」	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 嶽肩美和子 中村加奈子	4. 巻 66
2. 論文標題 「変わる！変える！医療安全教育：実習で学ぶ医療安全（仮題）」	5. 発行年 2025年
3. 雑誌名 医学書院「看護教育」	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 甲斐由紀子 嶽肩美和子	4. 巻 66
2. 論文標題 「変わる！変える！医療安全教育：インシデント報告から学ぶ医療安全（仮題）」	5. 発行年 2025年
3. 雑誌名 医学書院「看護教育」	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小林美雪 甲斐由紀子 島田伊津子 嶽肩美和子 中村加奈子	4. 巻 66
2. 論文標題 「変わる！変える！医療安全教育：これからの医療安全教育（仮題）」	5. 発行年 2025年
3. 雑誌名 医学書院「看護教育」	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計7件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 小林美雪
2. 発表標題 看護基礎教育において活用可能な医療安全教育教材の作成「看護教育における医療安全教育の課題と今後の取り組みへの提案」
3. 学会等名 第16回医療の質・安全学会OnDemand-PD5
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中村加奈子 金子あや
2. 発表標題 看護基礎教育において活用可能な医療安全教育教材の作成「コロナ禍における実習環境づくりと支援体制について」
3. 学会等名 第16回医療の質・安全学会OnDemand-PD5
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 島田伊津子
2. 発表標題 看護基礎教育において活用可能な医療安全教育教材の作成「授業内で段階的に臨床を想起させる医療安全教育と実習施設との調整」
3. 学会等名 第16回医療の質・安全学会OnDemand-PD5
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中根直子
2. 発表標題 看護基礎教育において活用可能な医療安全教育教材の作成「アフターコロナの新人看護職員に求められる医療安全推進者としての基礎力づくり」
3. 学会等名 第16回医療の質・安全学会OnDemand-PD5
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小林美雪
2. 発表標題 看護基礎教育に従事する教員と実習指導者の医療安全教育のための教材開発,医療安全教育力向上のための教材開発と活用について
3. 学会等名 第18回医療の質・安全学会PD4-1
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 甲斐由紀子
2. 発表標題 看護基礎教育に従事する教員と実習指導者の医療安全教育のための教材開発,教員の視点から見た卒前・卒後のギャップを埋める医療安全教育
3. 学会等名 第18回医療の質・安全学会PD4-2
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 嶽肩美和子
2. 発表標題 看護基礎教育に従事する教員と実習指導者の医療安全教育のための教材開発, 臨床の視点から見た医療安全教育 - 看護基礎教育とのシームレスな関わり、協働を目指して -
3. 学会等名 第18回医療の質・安全学会PD4-3
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	内田 宏美 (Uchida Hiron) (30243083)	森ノ宮医療大学・看護学部・教授  (34606)	
研究分担者	宇城 令 (Ushiro Rei) (40438619)	愛知県立大学・看護学部・准教授  (23901)	
研究分担者	寺井 美峰子 (Terai Mineko) (50574521)	公益財団法人田附興風会・医学研究所 保健・健康研究部・部長  (74314)	
研究分担者	甲斐 由紀子 (Kai Yukiko) (70621803)	宮崎大学医学部附属病院・医療安全管理部・病院参与  (17601)	
研究分担者	島田 伊津子 (Shimada Itsuko) (60896900)	国際医療福祉大学・成田看護学部・講師  (32206)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	嶽肩 美和子  (Takegata Miwako)	聖路加国際病院	
研究協力者	中村 加奈子  (Nakamura Kanako)	聖路加国際病院	
研究協力者	中根 直子  (Nakane Naoko)	日本赤十字社医療センター	
研究協力者	佐々木 菜名代  (Sasaki Nanayo)	浜松医科大学医学部附属病院	
研究協力者	金子 あや  (Kaneko Aya)	聖路加国際病院	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関